

タララララ  
タララララ  
タララララ  
タララララ  
タララララ

(作曲 グノー)

か け す の う た も 途 絶 え  
腐 植 質 は か た く 凍 中  
酸 礫 の 稜 角 と に  
は が ね は 火 花 を あ げ 来 し

氷 霧 は そ ら に 鎖 し  
落 葉 松 は 黒 く す が れ  
稜 礫 の あ れ つ ら を  
凍 り て わ れ ら は き たり ぬ

宮沢賢治

宮沢賢治の歌曲より  
角礫行進歌

天のひかりは降りも来ず  
天のひかりは降りも来ず  
天のひかりは降りも来ず

海 鳴 り の こ ゝ ろ く 日 は  
郵 船 も よ り 来 ぬ を  
火 の 山 の 燃 え 燃 り て  
雲 の 流 る  
海 鳴 り よ せ 来 る 椿 の は や し く  
ひ わ も す 百 合 掘 り  
今 日 も は て ぬ

火の島の歌

宮沢賢治

(作曲 ウェバー)

星めぐりの歌

作詞・作曲 宮沢賢治  
(作詞 佐藤春平)

Musical score for '星めぐりの歌' with lyrics in Japanese and Roman characters.

エスペラント詩稿

(1)  
雪山の反射のなかに  
嫩草を  
しごききたりて馬に喰ましむ  
(大正5年3月)

宮沢賢治

Printempo 「春」  
Ni pastos mian Ĉevalon  
prenante  
negoradiantan junan herbon.

(わたしは馬に草を食べさせよう  
雪明かりに照らされた若草を  
手に持ちながら)

(2)  
しろがねの夜あけの雲は  
なみよりも  
なほたよりなき野を被ひけり  
(大正5年7月)

Mateno 「朝」  
Argentaj matenonuboj  
kovras  
maldefinitan torfkampon.

(銀の朝雲が  
ぼんやりした泥炭の野を  
被っている)

(3)  
山山に  
白雲かゝり  
城あとの粟さざめきて今日も暮れたり  
(大正3年4月)

Vespero 「夕」  
Stratusoj pendas sur la montoj.  
Milioj flustras en sekreta kastelruino.

(層雲が山々のうえに掛かっている、  
粟が秘やかな城跡でさざやいている)

[注]エスペラント文中、下線部の修正および詩稿の日本語試訳は  
東北エスペラント連盟会長・県立宮古短期大学助教授の佐藤勝一氏。  
1996年6月30日(日) 14:00~「啄木のリードオルガン・賢治のセロ・トシのヴァイオリンとヒモに」  
空岡劇場メインホール セロ 小西信浩 作曲・リードオルガン 佐藤春平 朗読 佐藤勝一